



## 絶え間無い渴き

---

激しい喉の渴き…、血肉を求める激しい餓え…、人の血で染まった薄汚い手。肉体の腐敗を防ぐため、常に人を食べなくてはならない私。彼が運ぶ肉を何の迷いもなく食べた、その肉が何の肉か知るまでは…。それを知った今、私は死を望んだ。

…私、もう嫌、この空腹も、怪物になるのも…。彼は何も言わず、ただ私をそっと抱き締めるだけだ。そんな彼を突き飛ばし、ポケットに入れておいた銃を取りだし、額に銃口を当てる。血の染みついたコンテナ、腐敗して嫌な匂いを放つ私の体、包帯を体じゅうに巻いた私…何もかもうんざり。もう終わりにしよう。私は引き金を引いた…。やっと解放されるこの長い旅から、自由になれるのだ。